



# いわき探検記



2023年1月 Vol. 11  
地域おこし協力隊  
辻村 春香

年明けの月です。年末年始は穏やかな天気での年越しになりましたね。  
新たな1年、何かを決断・決意した方もいるかもしれません。  
いずれにしても、みなさまにとって、悔いのない良い1年となりますように。

## 居場所づくり @ 五代多目的集会所

**12月はリースづくりをしました。弘大生のボランティアも3人来てくれました！**

リースづくりには、小学生とお母さんの親子参加のほか、高校生・大学生～70代まで、さまざまな方が参加してくださいました。

作業中は、声もかけられないほどみなさん集中していて、真剣そのもの。

完成してからようやく場が和やかになり、時間のある方は交流してからお帰りになりました。

それを拝見し、世代や町会を越えた交流の機会を、もっと盛んにつくる必要を感じました。



← →  
リース制作中は、皆さん集中して声もかけられない雰囲気…。  
力作ができて、最後には和やかにほかの方の作品を覗きに行っていました。



弘前大学のボランティアセンターにお願いしたところ、3人の学生さんがお手伝いに来てくれました。

会場づくりや後片付けのほか、参加者の皆さんと交流してくださいました。

弘大生の方には、今後、学習支援もお願いしていきたいと考えています。

1人で宿題できないお子さんなど、弘大生の方に教えていただきながら、お互いに成長できる環境づくりもしていきたいと考えています。



## 次回 1月21日(土)9:00～開場 ～獅子舞を踊ってみませんか？

1月は「獅子舞を教わって、踊ってみよう」と思います。五代獅子舞保存会の会長が、獅子舞について教えてくださいます。

最後にはサプライズもあるかも？

「獅子舞は興味あるけど機会がない」「少し体を動かしたい」、どんな動機でも構いませんので、ぜひご参加ください。

「イベントに参加する気はないけど、ちょっと人に会いたいわ」という方も、大歓迎です！！



五代獅子舞

## 駒越地区 愛宕神社氏子会の注連縄づくり

昨年見かけた、駒越愛宕神社の注連縄（しめなわ）の架け替え。  
念願かなって、注連縄づくりを見学…するだけでなく、参加させていただきました。  
12月22日・23日の部品作成と、12月25日の大注連縄づくり、鳥居にかけ、組み立てを完了し、参拝するまでの、一連の作業。

氏子会の方を中心に、町内の手練れが集まり、1年前の記憶も総動員しながらの作業となりました。

駒越愛宕神社の注連縄は、3本のよった大俵の上に、3俵の小俵が載る。大俵からは、3本の藁紙垂（わらしで）・3本の紙垂（しで）。

「3」という数字がそろった注連縄でした。

カメラを回して撮影させていただきました。作業の一部をご紹介します。

メンバーお手製の俵編み機。紐の間隔が均一になるように刻みが入っている。

元はいろんな幅のいろんな筵（むしろ）・俵が編める編み機を使用していたが、どれが何用の溝なのか、使い慣れないメンバーには混乱のもと…ということで、使用する分だけ溝をつけて、新たに作成したそう。

俵用の藁は小5本、大10本。2種類つくる。

藁によって太さがまちまちなので、初めに編み始めたときの太さと同じになるように、藁を手渡す担当は太さの調整をおこないながら、編み手に渡し、2人1組で編んでいった。  
麻紐の締める強さも、均一になるように気を付けながら編む。



最終日。作業場所も変更。  
大俵の縄を延長し、左右8mの長さに。  
縄を編む人3人・藁を手渡す人3人・上で押さえる人の最低7人いないとできない作業。

縄が編み終わると、大俵に藁紙垂（わらしで）を差し込む作業。  
これも力のいる作業なので、数人がかりでやっとできる作業。



組み終わった注連縄を神社まで運ぶ。  
鳥居への取付け部分は吉祥結びにするが、手練れはスルスルと鮮やかに・手早く縄をかけていく。



大俵の上に小俵を取付け、紙製の紙垂（しで）を足し、お供えの林檎を小俵の上に。  
最後は全員で奉納の報告を神様に。

## 2月実施「麻糸産み後継者養成講座」、満員御礼！

「麻糸産み後継者養成講座 初級」を、外部講師を招いて2月に実施します。

2022年7月にこの講座を受講し、8月の藍染めのワークショップ実施をつうじ、私のこぎんに関する活動は「こぎんの素材を再び地場産に」という方向性に舵を切りました。

12月の募集開始10日ほどで、先着分が埋まり、キャンセル待ちの状況となっております。

希望者が多いようなのでもう1回、今度は初級1日・中級1日で講座を計画できるよう、準備を進めていきたいと考えています。

協力隊の任期が終了しても、継続的に開催できるようにしていきたいと思っています。



## ミゴほうきづくり講習会 参加

所属する“あおもり和ハーブの会”の先輩たちから教わり、オンラインでミゴほうきづくりにチャレンジしました。

材料は、稲藁の穂先と、100均の麻糸。

ほかにハサミと布団針（私はダイソーの刺繍針を使用）、ペンチ（または金槌）があればできる、という代物（シロモノ）。

補強用に割りばし1本あるとよいとか。

材料となった稲藁は、稲刈りに参加した岩木山虹農園さんをお願いして、分けていただきました。

つくる工程は「ミゴ」を取り出す作業が一番時間がかかりました。「ミゴ」は、稲の脱穀後の、藁の穂先の部分。いわゆる「わらしべ」。ポロポロと細かいゴミが出ます。

ヤッケを穿いて作業すべきだったと、すべて終わった後に気づき、次回への改善策が…。

ミゴほうきは、枯れる前のススキなどでも作れるそうなので、来シーズンはいろんな素材で試したいと思います！



1作目のほうきは、出来が良かったので藁をくださった農家さんへ。

2作目、3作目とたて続けに作って、感覚を掴めたかと…。

## 横槌づくり

12月に市立図書館から『グリーンウッドワーク』の本を借りました。

きっかけは、研修で知り合った奈良県天川村の地域おこし協力隊の方から、「しばしば岐阜県で実施されるグリーンウッドワーク（＝生木加工）の講習会に参加している」とお聞きしたこと。

本を読んだことと、駒越の注連縄づくりに参加したこと、ミゴほうきづくりで余った藁と、11月に枝切りをさせていただいた柿の生木がある、という条件がそろい、藁うち用の横槌を自作できないか、と考えるようになりました。

木材の本を調べたら、柿の木は比重が高めで、硬度もそれなりにあることがわかりました。

大晦日に実家にある工具で自作。人生初の鑿（のみ）にチャレンジいたしました。鉋（かな）も久しぶりの利用…。

今は木をじっくり乾燥中。

落ち着いたら、自宅風除室にかけてある藁（イネ・シロヒエ・ハトムギ）の藁打ちをし、来春の畑に役立つ何かに作り変えようと思います！



鋸・鑿で形をつくり、鉋と紙やすりで仕上げしました。柄を含めた長さは30cmくらい。

## ◆◆ 編集後記 ◆◆

早いもので、岩木に来てから1年9カ月が経過しました。

任期終了まであと1年ちょっと。

岩木のひと・こと・ものを、もっともっと深く知り、3年間の成果としてまとめられるよう、これからも頑張っていきたいと思えます。

お力添え、よろしくお願いいたします。

# WANTED

## 空き家を探しています！

岩木地区に農業体験等のできる拠点をつくりたいと考えております。

拠点づくりに使える空き家を探しています。

(物件への要望)

- ・ 退任後の居住を見据え、賃貸契約にて貸していただける物件。
- ・ 部屋数多め（5室以上あると嬉しい）。
- ・ リフォーム・リノベーションをしてもよい。
- ・ 車庫や倉庫があれば、なお嬉しい。
- ・ 立地：岩木地区内で、“少し足を延ばせば”里山や畑に行ける場所。
- ・ 賃料やその他条件⇒相談させてください。



「空き家になる予定があって…」 「親せきに管理まかされているけど…」 「1部屋だけは立入禁止にしたいけど、それ以外は使ってもらっていいんだけど…」 など。

情報があれば、まずはご一報いただき、お話しさせていただきたく思います！

## 梅などの放置果樹

相変わらず、放置果樹を募集しています。

柿は、ご協力くださる方がたくさん見つかりました。

ありがとうございます！

枝切りをするものもあり、“果樹の特性について勉強しなきゃ…”と。世の中、学ぶことはまだまだたくさんあるな、と思いました。

そんな私に、梅や杏など、「提供してもいいよ！」という方いらっしゃれば、お声がけくださいませ！



連絡先  
岩木総合支所 総務課

地域おこし協力隊 辻村まで

Tel: 0172-82-1621

Mail: har-tsumijura@city.hirosaki.lg.jp

もろもろ情報  
お待ちしております！



「いわき探検記」の直近のバックナンバーは、市のホームページからご覧になれます。古いものは、岩木庁舎でファイルしております。ご覧になりたい方は、岩木庁舎まで。